はんどちゃんネットワーク運動 活動レポート

城

平成20年11月22日取材



大地震などの災害時には多くの人々が被災地の支援 に駆けつけます。ボランティアを受け入れる際に必要な 知識を学ぶ「市町村社協災害担当・ボランティアコーディ ネーター研修会」を11月22日、県立結城養護学校体育 館で開催しました。

防災先進県から講師を招いて

講師には大地震の発生が懸念され防災対策に力を入れ ている静岡県から, 静岡県社会福祉協議会生活支援課長 の西村慎言さん、地域支援課主事の海野芳隆さん、菊川 市社会福祉協議会在宅福祉係長の伊藤学さんを招き、災 害時の要援護者支援の概要や、菊川市で行っている訓







練の報告 をうかが いました。 西村課長 は各地の

海野芳隆さん 災害現場 を訪れた体験から「季節や発生からの時間経過などで、 現場のニーズはさまざまに変わります。マニュアルだけ に頼らず、訓練を重ねる事が大切です」と柔軟な対応の 重要性を強調しました。

ビニール袋で炊く非常食

昼食では,災害の現場で役立 つご飯の炊き方を体験しました。 目盛りの付いたビニール製の「炊 飯袋」に米と水を計って入れ, 輪ゴムで口を縛ります。この袋





湯に漬けてご飯を炊きま す。炊飯袋の中には清潔 な水を入れますが、釜の 中のお湯は飲めない水で も利用でき、釜がなけれ ばドラム缶などで代用す ることも可能です。

「炊飯袋」で炊飯体験



真剣に講師の話に聞き入る参加者の方々

実感した訓練の大切さ

午後は伊藤係長の指導で、県外ボランティアの受け入 れ窓口になるボランティア現地本部の立ち上げ訓練を行 いました。参加者は二つのグループに分かれ、現地本部 の運営スタッフ役と、ボランティア役を交互に行いまし た。スタッフ役は被災者のニーズを集めたり、ボラン ティアの登録手続きや、依頼する仕事の割り振りといっ た現地本部の業務を体験しました。参加者からは「一度 目は何をしたら良いか分からなかったが、二度目は落ち 着いてできました」など、訓練を重ねる事の意義を実感 する感想が聞かれました。また、「先にボランティア役

をやったので、ス タッフ役はスムー ズに理解できまし た」という感想も あり, 双方の立場 を理解することの 大切さが感じられ ました。



訓練の大切さを実感した皆さん

被災者の立場に立って

訓練終了後の話し合いの中で、海野主事は「皆さんは 今日、ボランティアと運営スタッフの立場を体験されま したが、もう一つ大切なのは被災者の気持ちを理解する ことです」と話し、被災者支援という活動の目的を再確 認しました。伊藤係長は「災害時の被災者支援は行政だ けでも、住民だけでもできません。」と行政と住民の間 に立ち社会福祉の推進を担う社協の役割を訴えました。

いばらきの社会

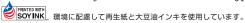
Social Welfare of Ibaraki

発行者/社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会

〒310-8586 水戸市千波町1918

電話 029(241)1133(代) FAX 029(241)1434

ふくしネットワークいばらき (http://www.ibaraki-welfare.or.jp/) (E-mail ibashakyo @ibaraki-welfare.or.jp)





ワークいばらきにフ クセスできます。